令和 7年度（6年度決算分）高松市事務事業評価表【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	人を育み、多様な生き方が尊重されるまち	評価担当	局名	教育局
	政策	個性を伸ばし、一人ひとりが輝く教育の充実		課(室)名	学校教育課
	施策	学校教育の充実		電話番号	087-839-2616
	取組方針	確かな学力と個性を伸ばす教育の推進		事業期間	令和 6年度～令和 13年度
	事務事業	帰国児童等指導援助事業			

【事業全体概要】

事業概要	市立小・中学校に在籍する児童生徒で、日本語指導を必要としている帰国・外国人児童生徒に、学習や生活についての指導助言を行う指導者を派遣し、外国人児童生徒等が日本語で学習に参加できるよう日本語指導を行い、学校生活を支援する。			
年度概要	帰国児童等指導援助 (月2回程度) 日本語教育支援員			
重点取組事業		市長マニフェスト		関連根拠法令

【事業の目的】

対象(何を)	市立小・中学校の児童生徒
意図(どのような状態にしたいか)	日本語指導の必要な児童生徒に日本語指導や生活指導を行うことにより、学校生活への円滑な適応を図る。

【事業の活動】

活動指標名(具体的にどのような活動をしたか)	単位	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
派遣延べ回数	回	0	0	1,108	1,170	1,170

【事業の成果】

成果指標	成果指標名(どのような成果が得られたか)	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
		帰国児童等の学校生活への適応率	%	目標値 実績値	0 0	0 0	100 100	100
成果指標	成果指標の達成度(目標に対してどれだけ達成できたか)							
	市が設置する小中学校で教育上必要であり、本事業の実施により教育の充実が図られ、概ね目標どおり達成できた。			(目標達成度) 100.0%	(得点) 35点			
成果指標	成果指標名(どのような成果が得られたか)	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
			目標値 実績値					
成果指標	成果指標の達成度(目標に対してどれだけ達成できたか)							
				(目標達成度)	(得点)			

【コストの推移】

	単位	R 4(決算)	R 5(決算)	R 6(決算)	R 7(予算)
トータルコスト	[千円]	8,599	9,449	14,367	17,612
(事業費)	[千円]	4,857	5,685	7,419	10,664
(職員人件費)	[千円]	3,742	3,764	6,948	6,948

【事業内容と事業費内訳】

項目	事業内容	積算根拠等 (予算の増減理由)	事業費		
令和 6 年度	帰国児童等指導援助 (月2 回程度) 日本語教育支援員	6 , 6 6 4 千円 7 5 5 千円	総額	7,419	
			特定財源	国	1,773
				県	0
				市債	0
				他	0
一般財源	5,646				
令和 7 年度	帰国児童等指導援助 (月2 回程度) 日本語教育支援員	7 , 4 1 5 千円 3 , 2 4 9 千円	総額	10,664	
			特定財源	国	3,479
				県	0
				市債	0
				他	0
一般財源	7,185				

【事業の評価】

区分	評価項目	評価基準	
妥当性	事業の実施が総合計画・市長マニフェスト等の目標達成や、事業の根拠等に結びつくか。	5	結びつく
	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか。	5	高まっている
有効性	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	5	貢献度が大きい
	住民福祉の向上に貢献しているか。	5	貢献度が大きい
効率性	事業実施手法としては最適か。	5	現状が最適である
	類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性はあるか。	5	現状が望ましい

評価ランク	A (80%~ 100%)	A	総合点 (率)	100 / 100 (100%)	今後の方向性	拡充
	B (60%~ 79%)					
	C (0%~ 59%)					

【昨年度の実施状況と課題】 (評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)

目標を概ね達成することができ、事業の目的に合った実施を行うことができています。

【今後の事業方針】 (評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針・改善策を具体的に記入)

社会の国際化による外国人児童生徒の増加に伴い、指導者の確保と派遣回数 の充実を図る必要がある。

令和 7年度（6年度決算分）高松市事務事業評価表【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	人を育み、多様な生き方が尊重されるまち	評価担当	局名	教育局
	政策	個性を伸ばし、一人ひとりが輝く教育の充実		課(室)名	学校教育課
	施策	学校教育の充実		電話番号	087-839-2616
	取組方針	確かな学力と個性を伸ばす教育の推進		事業期間	令和 6年度～令和 13年度
	事務事業	学校教育推進事業			

【事業全体概要】

事業概要	総合的な学習の時間の充実や地域等の教育力の有効活用のため、市立小・中学校に経費補助を行う。		
年度概要	全ての市立小・中学校に経費補助を行う。		
重点取組事業	市長マニフェスト	関連根拠法令	学校教育法，学校教育法施行規則，小・中学

【事業の目的】

対象（何を）	市立小・中学校
意図（どのような状態にしたいか）	地域人材等を活用し、児童生徒の体験活動の充実を図る。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
事業実施校数	校	0	0	73	73	73

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
		総合的な学習の時間における地域人材活用率	%	目標値 実績値	0 0	0 0	100 100	100
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
	地域人材等の積極的活用や、多様な人材確保のための情報収集等により、目標は十分に達成できている。		(目標達成度) 100.0%	(得点) 35点				
成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
			目標値 実績値					
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
			(目標達成度)	(得点)				

【コストの推移】

	単位	R 4(決算)	R 5(決算)	R 6(決算)	R 7(予算)
トータルコスト	[千円]	10,581	10,878	10,932	10,321
(事業費)	[千円]	7,587	7,867	7,844	7,233
(職員人件費)	[千円]	2,994	3,011	3,088	3,088

【事業内容と事業費内訳】

項目	事業内容	積算根拠等 (予算の増減理由)	事業費		
令和 6 年度	全ての市立小・中学校に経費補助を行う。	7,844千円	総額	7,844	
			特定財源	国	0
				県	0
				市債	0
				他	0
一般財源	7,844				
令和 7 年度	全ての市立小・中学校に経費補助を行う。	7,233千円	総額	7,233	
			特定財源	国	0
				県	0
				市債	0
				他	0
一般財源	7,233				

【事業の評価】

区分	評価項目	評価基準	
妥当性	事業の実施が総合計画・市長マニフェスト等の目標達成や、事業の根拠等に結びつくか。	5	結びつく
	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか。	5	高まっている
有効性	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	5	貢献度が大きい
	住民福祉の向上に貢献しているか。	5	貢献度が大きい
効率性	事業実施手法としては最適か。	5	現状が最適である
	類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性はあるか。	5	現状が望ましい

評価ランク	A (80%~ 100%)	A	総合点 (率)	100 / 100 (100%)	今後の方向性	継続
	B (60%~ 79%)					
	C (0%~ 59%)					

【昨年度の実施状況と課題】 (評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)

目標を概ね達成することができ、事業の目的に合った実施を行うことができている。

【今後の事業方針】 (評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針・改善策を具体的に記入)

学校ごとに特色ある教育を充実させるための経費として、強い要望がある補助事業である。今後においても、学校からの意見も取り入れつつ充実させていく。

令和 7年度（6年度決算分）高松市事務事業評価表【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	人を育み、多様な生き方が尊重されるまち	評価担当	局名	教育局
	政策	個性を伸ばし、一人ひとりが輝く教育の充実		課(室)名	学校教育課
	施策	学校教育の充実		電話番号	087-839-2616
	取組方針	確かな学力と個性を伸ばす教育の推進		事業期間	令和 6年度～令和 13年度
	事務事業	教材研究等事業			

【事業全体概要】

事業概要	教職員が使用する教科書及び指導書等の整備を行い、義務教育の充実を図る。新学習指導要領に対応した教師用指導書を支給し、学力の育成を図る。			
年度概要	教師用教科書等の購入 教師用副読本等の購入			
重点取組事業		市長マニフェスト		関連根拠法令

【事業の目的】

対象（何を）	市立小・中学校の教員
意図（どのような状態にしたいか）	授業内容を確実に理解し、確かな学力を育むことができるよう、一人一人の理解や習熟の程度などに応じたきめ細かな指導を行う。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
教師用教科書購入冊数	冊	0	0	22,677	7,000	1,500

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
		高松市立小中学校教職員への配布率	%	目標値 実績値	0 0	0 0	100 100	100 100
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
	市が設置する小・中学校で教育上必要であり、本事業の実施により教育の充実が図られ、目標どおり達成できた。			(目標達成度) 100.0%	(得点) 35点			
成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
			目標値 実績値					
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
				(目標達成度)	(得点)			

【コストの推移】

	単位	R 4(決算)	R 5(決算)	R 6(決算)	R 7(予算)
トータルコスト	[千円]	9,498	9,840	200,780	84,380
(事業費)	[千円]	5,756	6,076	193,060	76,660
(職員人件費)	[千円]	3,742	3,764	7,720	7,720

【事業内容と事業費内訳】

項目	事業内容	積算根拠等 (予算の増減理由)	事業費		
令和 6 年度	教師用教科書等の購入 教師用副読本等の購入 採択協議会	192,821千円 150千円 89千円	総額	193,060	
			特定財源	国	0
				県	0
				市債	0
				他	0
一般財源	193,060				
令和 7 年度	教師用教科書等の購入 教師用副読本等の購入	76,508千円 152千円	総額	76,660	
			特定財源	国	0
				県	0
				市債	0
				他	0
一般財源	76,660				

【事業の評価】

区分	評価項目	評価基準	
妥当性	事業の実施が総合計画・市長マニフェスト等の目標達成や、事業の根拠等に結びつくか。	5	結びつく
	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか。	3	横ばいである
有効性	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	3	貢献度が中程度、義務的事業
	住民福祉の向上に貢献しているか。	3	貢献度が中程度、義務的事業
効率性	事業実施手法としては最適か。	3	現状が望ましい
	類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性はあるか。	5	現状が望ましい

評価ランク	A (80%~ 100%)	A	総合点 (率)	92 / 100 (92%)	今後の方向性	継続
	B (60%~ 79%)					
	C (0%~ 59%)					

【昨年度の実施状況と課題】 (評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)

目標を概ね達成することができ、事業の目的に合った実施を行うことができています。

【今後の事業方針】 (評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針・改善策を具体的に記入)

少人数学級や加配教員の配置などに伴い、学校現場から指導書等の必要数増の要望の精査を行い、適宜、配付基準を見直す必要がある。

令和 7年度（6年度決算分）高松市事務事業評価表【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	人を育み、多様な生き方が尊重されるまち	評価担当	局名	教育局
	政策	個性を伸ばし、一人ひとりが輝く教育の充実		課(室)名	学校教育課
	施策	学校教育の充実		電話番号	087-839-2616
	取組方針	確かな学力と個性を伸ばす教育の推進		事業期間	令和 6年度～令和 13年度
	事務事業	英語教育推進事業			

【事業全体概要】

事業概要	「語学指導等を行う外国青年招致事業」（JETプログラム）による外国語指導助手（ALT）を市内小中学校に派遣することにより、中学校英語教育や小学校英語活動、国際理解教育の充実を図る。 また、市内小学校に、学級担任を補助する「英語指導補助員」を配置する。 英語・外国語活動の授業だけでなく、ALTとの様々な活動（休み時間の活動や学校行事等）を通して、児童生徒のコミュニケーション能力の育成と、国際理解教育の推進を図る。			
年度概要	小・中学校に外国語指導助手（ALT）、小学校に英語指導補助員を派遣を派遣 報酬等 旅費 負担金等			
重点取組事業		市長マニフェスト		関連根拠法令

【事業の目的】

対象（何を）	市立小・中学校の児童生徒
意図（どのような状態にしたいか）	外国語指導助手（ALT）等の指導を受けることにより、児童生徒の英語によるコミュニケーション能力向上と英語指導補助員が小学校教員（3～6年生）をサポートすることで、より楽しく効果的な授業づくりを補助する。また、教職員の資質の向上を図る。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
外国語指導助手（ALT）延べ授業日数	日	0	0	3,960	3,960	3,960
英語指導補助員延べ派遣時間数	時間	0	0	4,670	3,970	3,176

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8	
		外国語指導助手（ALT）配置率	%	目標値 実績値	0 0	0 0	100 100	100 100	100
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）								
	ALT及び人材派遣の委託を活用することにより、100%の配置率を維持することができた。			(目標達成度)	100.0%				
				(得点)	35点				
成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8	
	英検 3級相当の英語力を有する中学3年生の割合	%	目標値 実績値	0 0	0 0	35 55.8	40 40	45	
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）								
	英語教育の充実に向けたより効果的な施策の実施により上昇しており、概ね目標を達成することが出来ている。			(目標達成度)	159.4%				
				(得点)	35点				

【コストの推移】

	単位	R 4(決算)	R 5(決算)	R 6(決算)	R 7(予算)
トータルコスト	[千円]	116,348	112,812	109,467	121,352
(事業費)	[千円]	101,380	97,758	93,255	105,140
(職員人件費)	[千円]	14,968	15,054	16,212	16,212

【事業内容と事業費内訳】

項目	事業内容	積算根拠等 (予算の増減理由)	事業費		
令和 6 年度	小・中学校に外国語指導助手(ALT)、小学校に英語指導補助員を派遣を派遣 報酬等 旅費 負担金等	86,980千円 1,729千円 4,546千円	総額	93,255	
			特定財源	国	0
				県	875
				市債	0
				他	53
一般財源	92,327				
令和 7 年度	小・中学校に外国語指導助手(ALT)、小学校に英語指導補助員を派遣を派遣 報酬等 旅費 負担金等	97,426千円 2,310千円 5,404千円	総額	105,140	
			特定財源	国	0
				県	3,240
				市債	0
				他	0
一般財源	101,900				

【事業の評価】

区分	評価項目	評価基準	
妥当性	事業の実施が総合計画・市長マニフェスト等の目標達成や、事業の根拠等に結びつくか。	5	結びつく
	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか。	3	横ばいである
有効性	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	5	貢献度が大きい
	住民福祉の向上に貢献しているか。	3	貢献度が中程度、義務的事業
効率性	事業実施手法としては最適か。	1	検討の余地がある
	類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性はあるか。	1	検討の余地がある

評価ランク	A (80%~ 100%)	A	総合点 (率)	88 / 100 (88%)	今後の方向性	継続
	B (60%~ 79%)					
	C (0%~ 59%)					

【昨年度の実施状況と課題】(評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)

目標を概ね達成することができ、事業の目的に合った実施を行うことができている。小規模校へのALT派遣に委託を導入することにより、事業効果が向上した。

【今後の事業方針】(評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針・改善策を具体的に記入)

現在の成果を維持しつつ、令和2年以降の5・6年教科化、3・4年外国語活動必修化を受け、今後も引き続きより良い方法について検討し、小学校英語の充実を図る必要がある。

令和 7年度（6年度決算分）高松市事務事業評価表【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	人を育み、多様な生き方が尊重されるまち	評価担当	局名	教育局
	政策	個性を伸ばし、一人ひとりが輝く教育の充実		課(室)名	学校教育課
	施策	学校教育の充実		電話番号	087-839-2616
	取組方針	確かな学力と個性を伸ばす教育の推進		事業期間	令和 6年度～令和 13年度
	事務事業	児童生徒副読本支給事業			

【事業全体概要】

事業概要	学校教育における補助教材として、道徳用、社会科用の副読本を支給することにより、教育の充実を図る。			
年度概要	児童副読本の購入 ・道徳（わたしたちのふるさとかがわ） ・社会（高松の今と昔、3・4年生）			
重点取組事業		市長マニフェスト		関連根拠法令

【事業の目的】

対象（何を）	市立小学校の児童
意図（どのような状態にしたいか）	学校での社会科の指導や道徳の時間などに活用し、教育の充実を図る。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
児童生徒副読本購入冊数	冊	0	0	14,125	13,000	13,000

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
		児童生徒副読本配布率	%	目標値 実績値	0 0	0 0	100 100	100
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
	市が設置する小学校で教育上必要であり、本事業の実施により教育の充実が図られ、目標どおり達成することができた。			(目標達成度) 100.0%	(得点) 35点			
成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
			目標値 実績値					
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
				(目標達成度)	(得点)			

【コストの推移】

	単位	R 4(決算)	R 5(決算)	R 6(決算)	R 7(予算)
トータルコスト	[千円]	10,064	9,954	10,029	9,964
(事業費)	[千円]	6,322	6,190	6,169	6,104
(職員人件費)	[千円]	3,742	3,764	3,860	3,860

【事業内容と事業費内訳】

項目	事業内容	積算根拠等 (予算の増減理由)	事業費		
令和 6 年度	児童副読本の購入 ・道徳(わたしたちのふるさとかがわ) ・社会(高松の今と昔、3・4年生)	6,169千円	総額	6,169	
			特定財源	国	0
				県	0
				市債	0
				他	0
一般財源	6,169				
令和 7 年度	児童副読本の購入 ・道徳(わたしたちのふるさとかがわ) ・社会(高松の今と昔、3・4年生)	6,104千円	総額	6,104	
			特定財源	国	0
				県	0
				市債	0
				他	0
一般財源	6,104				

【事業の評価】

区分	評価項目	評価基準	
妥当性	事業の実施が総合計画・市長マニフェスト等の目標達成や、事業の根拠等に結びつくか。	5	結びつく
	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか。	3	横ばいである
有効性	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	3	貢献度が中程度、義務的事業
	住民福祉の向上に貢献しているか。	3	貢献度が中程度、義務的事業
効率性	事業実施手法としては最適か。	3	現状が望ましい
	類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性はあるか。	5	現状が望ましい

評価ランク	A (80%~ 100%)	A	総合点 (率)	92 / 100 (92%)	今後の方向性	継続
	B (60%~ 79%)					
	C (0%~ 59%)					

【昨年度の実施状況と課題】(評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)

目標を概ね達成することができ、事業の目的に合った実施を行うことができています。

【今後の事業方針】(評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針・改善策を具体的に記入)

各小学校に対して、より一層の活用を促していく。

令和 7年度（6年度決算分）高松市事務事業評価表【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	人を育み、多様な生き方が尊重されるまち	評価担当	局名	教育局
	政策	個性を伸ばし、一人ひとりが輝く教育の充実		課(室)名	学校教育課
	施策	学校教育の充実		電話番号	087-839-2616
	取組方針	確かな学力と個性を伸ばす教育の推進		事業期間	令和 6年度～令和 13年度
	事務事業	特別支援教育推進事業			

【事業全体概要】

事業概要	特別支援学級及び通常学級に在籍する児童生徒のうち、配慮や支援が必要な児童生徒に対する日常生活上の介助を中心に、学習の補助、児童生徒の安全確保等を行う。 また、総合教育センターと教育支援センター「みなみ」に高松第一中学校通級指導教室のサテライト教室を設置し、中学生を対象とした通級による指導を、総合教育センターと教育支援センター「みなみ」に発達障がい等をサポートするアシスト教室を設置し、短期個別指導を実施する。			
年度概要	小・中学校に学校生活支援員（175人、5時間/日）を配置 サテライト教室、アシスト教室の設置			
重点取組事業	市長マニフェスト	関連根拠法令	学校教育法等	

【事業の目的】

対象（何を）	特別支援学級を設置している市立小・中学校
意図（どのような状態にしたいか）	特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対する教育の充実を図る。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
支援員延べ活動時間数	時間	0	0	162,343	175,000	185,000

【事業の成果】

成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
特別支援教育支援員配置率	%	目標値 実績値	0 0	0 0	100 100	100	100
成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
特別支援教育推進事業は、市立小・中学校における特別支援教育を推進する上で大きな役割を果たしている。学校側からの評価も高く、学校教育の充実に大いに寄与している。	(目標達成度)		100.0%				
	(得点)		35点				
成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
(目標達成度)							
(得点)							

【コストの推移】

	単位	R 4(決算)	R 5(決算)	R 6(決算)	R 7(予算)
トータルコスト	[千円]	173,664	183,588	207,321	241,578
(事業費)	[千円]	158,696	168,534	194,197	228,454
(職員人件費)	[千円]	14,968	15,054	13,124	13,124

【事業内容と事業費内訳】

項目	事業内容	積算根拠等 (予算の増減理由)	事業費		
			総額		
令和 6 年度	小・中学校に学校生活支援員(165人、5時間/日) を配置 サテライト教室、アシスト教室の設置	188,102千円 6,095千円	総額	194,197	
			特定財源	国	0
				県	0
				市債	0
				他	0
一般財源	194,197				
令和 7 年度	小・中学校に学校生活支援員(175人、5時間/日) を配置 サテライト教室、アシスト教室の設置	222,018千円 6,436千円	総額	228,454	
			特定財源	国	0
				県	0
				市債	0
				他	0
一般財源	228,454				

【事業の評価】

区分	評価項目	評価基準	
妥当性	事業の実施が総合計画・市長マニフェスト等の目標達成や、事業の根拠等に結びつくか。	5	結びつく
	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか。	5	高まっている
有効性	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	5	貢献度が大きい
	住民福祉の向上に貢献しているか。	5	貢献度が大きい
効率性	事業実施手法としては最適か。	3	現状が望ましい
	類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性はあるか。	5	現状が望ましい

評価ランク	A (80%~ 100%)	A	総合点 (率)	98 / 100 (98%)	今後の方向性	拡充
	B (60%~ 79%)					
	C (0%~ 59%)					

【昨年度の実施状況と課題】(評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)

目標を概ね達成することができ、事業の目的に合った実施を行うことができている。

【今後の事業方針】(評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針・改善策を具体的に記入)

各校のニーズに応じた配慮や支援を求められており、配置等について適宜対応を行う必要がある。対象児童生徒の増加や、保護者からの個別のニーズの高まりもあり、今後一層の充実を図るため、学校生活支援員を増員しており、今後の事業効果の向上が見込まれている。

令和 7年度（6年度決算分）高松市事務事業評価表【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	人を育み、多様な生き方が尊重されるまち	評価担当	局名	教育局
	政策	個性を伸ばし、一人ひとりが輝く教育の充実		課(室)名	学校教育課
	施策	学校教育の充実		電話番号	087-839-2616
	取組方針	豊かな心と健やかな体を育む教育の推進		事業期間	令和 6年度～令和 13年度
	事務事業	教育文化振興事業			

【事業全体概要】

事業概要	児童生徒の豊かな創造力と表現力を育て、情操を高めるとともに、日常の学校教育活動の成果等を広く市民に紹介する。			
年度概要	児童生徒の文化的・科学的活動を支える事業への支援 香川県小・中学校文化連盟負担金等			
重点取組事業		市長マニフェスト		関連根拠法令

【事業の目的】

対象（何を）	市立小・中学校の児童生徒
意図（どのような状態にしたいか）	児童生徒の豊かな創造力と表現力を育む。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
支援を行った発表会、作品展、コンクール等の件数	件	0	0	6	6	6

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
		発表会、作品展、コンクール等に出品・参加した学校数	校	目標値 実績値	0 0	0 0	48 65	48
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
	児童生徒の文化的・科学的活動の成果を発表する機会を設けることができ、目標を概ね達成することができた。		(目標達成度) 135.4% (得点) 35点					
成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
			目標値 実績値					
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
			(目標達成度) (得点)					

【コストの推移】

	単位	R 4(決算)	R 5(決算)	R 6(決算)	R 7(予算)
トータルコスト	[千円]	7,407	8,311	9,377	9,731
(事業費)	[千円]	3,665	4,547	6,289	6,643
(職員人件費)	[千円]	3,742	3,764	3,088	3,088

【事業内容と事業費内訳】

項目	事業内容	積算根拠等 (予算の増減理由)	事業費		
令和 6 年度	児童生徒の文化的・科学的活動を支える事業への支援 香川県小・中学校文化連盟負担金等	2,175千円 4,114千円	総額	6,289	
			特定財源	国	145
				県	0
				市債	0
				他	47
一般財源	6,097				
令和 7 年度	児童生徒の文化的・科学的活動を支える事業への支援 香川県小・中学校文化連盟負担金等	1,731千円 4,912千円	総額	6,643	
			特定財源	国	683
				県	0
				市債	0
				他	66
一般財源	5,894				

【事業の評価】

区分	評価項目	評価基準	
妥当性	事業の実施が総合計画・市長マニフェスト等の目標達成や、事業の根拠等に結びつくか。	5	結びつく
	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか。	3	横ばいである
有効性	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	3	貢献度が中程度、義務的事業
	住民福祉の向上に貢献しているか。	3	貢献度が中程度、義務的事業
効率性	事業実施手法としては最適か。	3	現状が望ましい
	類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性はあるか。	3	概ね効率的にできている

評価ランク	A (80%~ 100%)	A	総合点 (率)	90 / 100 (90%)	今後の方向性	継続
	B (60%~ 79%)					
	C (0%~ 59%)					

【昨年度の実施状況と課題】 (評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)

目標を概ね達成することができ、事業の目的に合った実施ができた。

【今後の事業方針】 (評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針・改善策を具体的に記入)

文化芸術活動の活性化を図るため、今後も引き続きより良い方法について検討を行う必要がある。

令和 7年度（6年度決算分）高松市事務事業評価表【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	人を育み、多様な生き方が尊重されるまち	評価担当	局名	教育局
	政策	個性を伸ばし、一人ひとりが輝く教育の充実		課(室)名	学校教育課
	施策	学校教育の充実		電話番号	087-839-2616
	取組方針	豊かな心と健やかな体を育む教育の推進		事業期間	令和 6年度～令和 13年度
	事務事業	いじめ等対策事業			

【事業全体概要】

事業概要	小学校におけるいじめ等の問題行動等に対応するため、児童の臨床心理に関して高度に専門的な知識・経験を有するスクールカウンセラーを配置し、いじめ等の問題行動等の早期発見・早期対応や未然防止を図る。			
年度概要	市内小学校にスクールカウンセラーを派遣し、いじめ等の問題行動等の早期発見・早期対応や未然防止に資する。 (1日4時間、年間10回配置) ・事業に要する経費の1/2を市が負担する。			
重点取組事業		市長マニフェスト		関連根拠法令

【事業の目的】

対象(何を)	市立小学校の児童、保護者、教員
意図(どのような状態にしたいか)	いじめや不登校等の重大性を認識し、正確かつ迅速な状況把握と早期解決に向けて、小学校の教育相談体制の充実を図るとともに、いじめ等の問題行動等の早期発見・早期対応や未然防止を図る。

【事業の活動】

活動指標名(具体的にどのような活動をしたか)	単位	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
スクールカウンセラー延べ活動時間数	時間	0	0	1,520	1,520	1,520

【事業の成果】

成果指標	成果指標名(どのような成果が得られたか)	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
		小学校におけるスクールカウンセラーへの相談件数	件	目標値 実績値	0 0	0 0	3,500 4,717	3,500
	成果指標の達成度(目標に対してどれだけ達成できたか)							
	より細やかな児童へのカウンセリングや、教職員、保護者への専門的助言・援助、教職員等への事例研修等、スクールカウンセラーの活用により、問題行動等の減少に繋がっており、目標を概ね達成できている。			(目標達成度)		134.8%		
				(得点)		35点		
成果指標	成果指標名(どのような成果が得られたか)	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
			目標値 実績値					
	成果指標の達成度(目標に対してどれだけ達成できたか)							
				(目標達成度)				
				(得点)				

【コストの推移】

	単位	R 4(決算)	R 5(決算)	R 6(決算)	R 7(予算)
トータルコスト	[千円]	7,382	7,395	6,755	7,793
(事業費)	[千円]	3,640	3,631	3,667	4,705
(職員人件費)	[千円]	3,742	3,764	3,088	3,088

【事業内容と事業費内訳】

項目	事業内容	積算根拠等 (予算の増減理由)	事業費		
令和 6 年度	市内小学校にスクールカウンセラーを派遣し、いじめ等の問題行動等の早期発見・早期対応や未然防止に資する。 (1日4時間、年間10回配置) ・事業に要する経費の1/2を市が負担する。	3,667千円	総額	3,667	
			特定財源	国	0
				県	0
				市債	0
				他	0
一般財源	3,667				
令和 7 年度	市内小学校にスクールカウンセラーを派遣し、いじめ等の問題行動等の早期発見・早期対応や未然防止に資する。 (1日4時間、年間10回配置) ・事業に要する経費の1/2を市が負担する。	4,705千円	総額	4,705	
			特定財源	国	0
				県	0
				市債	0
				他	0
一般財源	4,705				

【事業の評価】

区分	評価項目	評価基準	
妥当性	事業の実施が総合計画・市長マニフェスト等の目標達成や、事業の根拠等に結びつくか。	5	結びつく
	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか。	5	高まっている
有効性	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	5	貢献度が大きい
	住民福祉の向上に貢献しているか。	3	貢献度が中程度、義務的事業
効率性	事業実施手法としては最適か。	3	現状が望ましい
	類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性はあるか。	5	現状が望ましい

評価ランク	A (80%~ 100%)	A	総合点 (率)	96 / 100 (96%)	今後の方向性	継続
	B (60%~ 79%)					
	C (0%~ 59%)					

【昨年度の実施状況と課題】 (評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)

目標を概ね達成することができ、事業の目的に合った実施を行うことができている。

【今後の事業方針】 (評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針・改善策を具体的に記入)

県事業に対しての負担金の支払いを行っている。学校現場からの配置時間、配置人員等の要望を伝える工夫を行い、より効果のある事業とする。

令和 7年度（6年度決算分）高松市事務事業評価表【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	人を育み、多様な生き方が尊重されるまち	評価担当	局名	教育局
	政策	個性を伸ばし、一人ひとりが輝く教育の充実		課(室)名	学校教育課
	施策	学校教育の充実		電話番号	087-839-2616
	取組方針	豊かな心と健やかな体を育む教育の推進		事業期間	令和 6年度～令和 13年度
	事務事業	児童生徒指導推進事業			

【事業全体概要】

事業概要	福祉の専門家であるスクールソーシャルワーカーの計画的・効果的な活用により、児童・生徒を取り巻く環境整備を行い、暴力行為などの問題行動や不登校等の未然防止、早期発見・早期対応を促すシステム作りを行う。				
年度概要	スクールソーシャルワーカーの配置等 いじめ相談専門員の配置				
重点取組事業		市長マニフェスト		関連根拠法令	いじめ防止対策推進法

【事業の目的】

対象（何を）	市立小・中学校の児童生徒
意図（どのような状態にしたいか）	社会福祉等の専門的な知識と技術を用い、児童・生徒を取り巻く環境を整備することにより、問題解決を図る。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
スクールソーシャルワーカー（SSW）延べ派遣回数	回	0	0	3,629	3,800	3,800

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
		スクールソーシャルワーカーによる支援件数	件	目標値 実績値	0 0	0 0	1,300 2,198	1,300
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
	スクールソーシャルワーカーの配置が、暴力行為などの問題行動や不登校等に対する早期発見・早期対応につながっており、解決の一助となっている。			（目標達成度） 169.1%		（得点） 35点		
成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
			目標値 実績値					
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
				（目標達成度）		（得点）		

【コストの推移】

	単位	R 4(決算)	R 5(決算)	R 6(決算)	R 7(予算)
トータルコスト	[千円]	104,285	117,846	140,498	143,796
(事業費)	[千円]	89,317	102,792	125,058	128,356
(職員人件費)	[千円]	14,968	15,054	15,440	15,440

【事業内容と事業費内訳】

項目	事業内容	積算根拠等 (予算の増減理由)	事業費		
			総額		
令和 6 年度	スクールソーシャルワーカーの配置等 いじめ相談専門員の配置	118,532千円 6,526千円	総額	125,058	
			特定財源	国	27,352
				県	0
				市債	0
				他	0
一般財源	97,706				
令和 7 年度	スクールソーシャルワーカーの配置等 いじめ相談専門員の配置	121,400千円 6,956千円	総額	128,356	
			特定財源	国	40,107
				県	0
				市債	0
				他	0
一般財源	88,249				

【事業の評価】

区分	評価項目	評価基準	
妥当性	事業の実施が総合計画・市長マニフェスト等の目標達成や、事業の根拠等に結びつくか。	5	結びつく
	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか。	5	高まっている
有効性	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	5	貢献度が大きい
	住民福祉の向上に貢献しているか。	5	貢献度が大きい
効率性	事業実施手法としては最適か。	3	現状が望ましい
	類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性はあるか。	5	現状が望ましい

評価ランク	A (80%~ 100%)	A	総合点 (率)	98 / 100 (98%)	今後の方向性	継続
	B (60%~ 79%)					
	C (0%~ 59%)					

【昨年度の実施状況と課題】 (評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)

学校現場に制度が浸透するにつれて、事業の目的に合った人材活用を行うことができるようになってきている。

【今後の事業方針】 (評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針・改善策を具体的に記入)

スクールソーシャルワーカーについては、今後、全ての小・中学校への配置を目指し、拡充する。

令和 7年度（6年度決算分）高松市事務事業評価表【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	人を育み、多様な生き方が尊重されるまち	評価担当	局名	教育局
	政策	個性を伸ばし、一人ひとりが輝く教育の充実		課(室)名	学校教育課
	施策	学校教育の充実		電話番号	087-839-2616
	取組方針	豊かな心と健やかな体を育む教育の推進		事業期間	令和 6年度～令和 13年度
	事務事業	小中一貫・連携教育推進事業			

【事業全体概要】

事業概要	高松第一学園において実施している義務教育9年間の連続性、発展性に留意した小中一貫教育を充実させるとともに、その成果を踏まえた小中連携教育を全市立小・中学校で推進する。			
年度概要	小中一貫教育の成果を踏まえた全市における小中連携の推進 ・高松みらい科（環境教育・キャリア教育）、小学校英語教育の成果 ・9年間を見通した系統的・継続的な学習指導、生徒指導 各中学校区における小中交流会等の事業開催			
重点取組事業		市長マニフェスト	関連根拠法令	なし

【事業の目的】

対象（何を）	高松第一学園の児童生徒 各中学校区の児童生徒
意図（どのような状態にしたいか）	義務教育9年間の連続性、継続性・発展性に留意した学校運営を行うことにより、教育内容、指導方法等の改善を図り、子どもたちの確かな学力や豊かな人間性、健やかな体を育む。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
「高松みらい科」授業時間数	時間	0	0	470	470	470
小中連携教育の実践中学校区数	校	0	0	22	22	22

【事業の成果】

成果指標	成果指標名 （どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
		「英語」・「高松みらい」の授業のアンケート支持率	%	目標値 実績値	0 0	0 0	80 80	80
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
	「高松みらい科」にみられる、キャリア教育、環境教育などについて、小中が連携して教育を行う素地となっている。		(目標達成度) 100.0% (得点) 35点					
成果指標	成果指標名 （どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
	小中連携教育の実践校数	校	目標値 実績値	0 0	0 0	69 69	69	69
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
	全ての小・中学校で各学校区の実情に応じた取組を行い、目標は達成できている。		(目標達成度) 100.0% (得点) 35点					

【コストの推移】

	単位	R 4(決算)	R 5(決算)	R 6(決算)	R 7(予算)
トータルコスト	[千円]	3,742	3,764	3,860	3,860
(事業費)	[千円]	0	0	0	0
(職員人件費)	[千円]	3,742	3,764	3,860	3,860

【事業内容と事業費内訳】

項目	事業内容	積算根拠等 (予算の増減理由)	事業費		
令和 6 年度	小中一貫教育の成果を踏まえた全市における小中連携の推進 ・高松みらい科(環境教育・キャリア教育)、小学校英語教育の成果 ・9年間を見通した系統的・継続的な学習指導、生徒指導 各中学校区における小中交流会等の事業開催	予算なし	総額	0	
			特定財源	国	0
				県	0
				市債	0
				他	0
			一般財源	0	
令和 7 年度	小中一貫教育の成果を踏まえた全市における小中連携の推進 ・高松みらい科(環境教育・キャリア教育)、小学校英語教育の成果 ・9年間を見通した系統的・継続的な学習指導、生徒指導 各中学校区における小中交流会等の事業開催	予算なし	総額	0	
			特定財源	国	0
				県	0
				市債	0
				他	0
			一般財源	0	

【事業の評価】

区分	評価項目	評価基準	
妥当性	事業の実施が総合計画・市長マニフェスト等の目標達成や、事業の根拠等に結びつくか。	5	結びつく
	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか。	3	横ばいである
有効性	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	5	貢献度が大きい
	住民福祉の向上に貢献しているか。	3	貢献度が中程度、義務的事業
効率性	事業実施手法としては最適か。	3	現状が望ましい
	類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性はあるか。	5	現状が望ましい

評価ランク	A (80%~ 100%)	A	総合点 (率)	94 / 100 (94 %)	今後の方向性	継続
	B (60%~ 79%)					
	C (0%~ 59%)					

【昨年度の実施状況と課題】(評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)

目標を概ね達成することができ、事業の目的に合った実施を行うことができている。

【今後の事業方針】(評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針・改善策を具体的に記入)

全体的には小中学校間の円滑な教育の接続、中1ギャップの解消を図ることを引き続き目指す。個別には学習面でのサポートの必要な子どもたちへのサポートを充実させる。

令和 7年度（6年度決算分）高松市事務事業評価表【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	人を育み、多様な生き方が尊重されるまち	評価担当	局名	教育局
	政策	個性を伸ばし、一人ひとりが輝く教育の充実		課(室)名	学校教育課
	施策	学校教育の充実		電話番号	087-839-2616
	取組方針	豊かな心と健やかな体を育む教育の推進		事業期間	令和 6年度～令和 13年度
	事務事業	学校図書館活性化推進事業			

【事業全体概要】

事業概要	学校図書館用図書の一層の効果的活用を図るとともに、児童・生徒の個性を伸ばす教育に資するため、学校図書館指導員を学校に配置し、情報提供等の支援を行う。 ・読書センターとしての機能を発揮できる学校図書館の効果的な運営を行い、本の読み聞かせなどを通して、感動する本と出会う機会を作ることで豊かな心を育み、知的好奇心を高める。 ・学習・情報センターとしての機能の充実を図り、情報の収集、選択、整理、発信等の力を高める。			
年度概要	小学校47校、中学校22校に学校図書館指導員（60人、6時間/日）を配置し、情報提供等の支援を行う。 図書館ボランティアネットワークかがわとの協働事業の活用 親子読書活動の推進			
重点取組事業	市長マニフェスト	関連根拠法令	子どもの読書活動の推進に関する法律、学校	

【事業の目的】

対象（何を）	市内小・中学校の児童生徒
意図（どのような状態にしたいか）	児童生徒の読書への関心を高める。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
指導員延べ年間活動日数	日	0	0	14,580	12,060	12,060

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
	児童1人当たりの学校図書館図書の貸出冊数	冊	目標値	0	0	61	61	61
			実績値	0	0	69.1		
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
	学校図書館指導員を配置したことで、児童が図書室を利用する機会が増え、読書意欲もさらに高まっており、目標を達成することができている。	(目標達成度)		113.3%				
	(得点)		35点					
成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
	生徒1人当たりの学校図書館図書の貸出冊数	冊	目標値	0	0	12	12	12
			実績値	0	0	13		
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
	学校図書館指導員を配置したことで、生徒が図書室を利用する機会が増え、読書意欲もさらに高まっていると考えられる。	(目標達成度)		108.3%				
	(得点)		35点					

【コストの推移】

	単位	R 4(決算)	R 5(決算)	R 6(決算)	R 7(予算)
トータルコスト	[千円]	177,727	184,838	225,788	231,679
(事業費)	[千円]	173,985	181,074	221,928	227,819
(職員人件費)	[千円]	3,742	3,764	3,860	3,860

【事業内容と事業費内訳】

項目	事業内容	積算根拠等 (予算の増減理由)	事業費		
令和 6 年度	小学校47校、中学校22校に学校図書館指導員(60人、6時間/日)を配置し、情報提供等の支援を行う。 図書館ボランティアネットワークかがわとの協働事業の活用 親子読書活動の推進	221,928千円 0千円 0千円	総額	221,928	
			特定財源	国	0
				県	0
				市債	0
				他	0
一般財源	221,928				
令和 7 年度	小学校47校、中学校22校に学校図書館指導員(60人、6時間/日)を配置し、情報提供等の支援を行う。 図書館ボランティアネットワークかがわとの協働事業の活用 親子読書活動の推進	227,819千円 0千円 0千円	総額	227,819	
			特定財源	国	0
				県	0
				市債	0
				他	0
一般財源	227,819				

【事業の評価】

区分	評価項目	評価基準	
妥当性	事業の実施が総合計画・市長マニフェスト等の目標達成や、事業の根拠等に結びつくか。	5	結びつく
	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか。	3	横ばいである
有効性	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	3	貢献度が中程度、義務的事業
	住民福祉の向上に貢献しているか。	3	貢献度が中程度、義務的事業
効率性	事業実施手法としては最適か。	3	現状が望ましい
	類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性はあるか。	5	現状が望ましい

評価ランク	A (80%~ 100%)	A	総合点 (率)	92 / 100 (92%)	今後の方向性	継続
	B (60%~ 79%)					
	C (0%~ 59%)					

【昨年度の実施状況と課題】(評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)

目標を概ね達成することができ、事業の目的に合った実施を行うことができている。

【今後の事業方針】(評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針・改善策を具体的に記入)

配置の見直しや学校現場における活用を推進するなど、事業の費用対効果を高める方策を検討し、学校図書館の一層の充実、利用促進を図っていく必要がある。

令和 7年度（6年度決算分）高松市事務事業評価表【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	人を育み、多様な生き方が尊重されるまち	評価担当	局名	教育局
	政策	個性を伸ばし、一人ひとりが輝く教育の充実		課(室)名	学校教育課
	施策	学校教育の充実		電話番号	
	取組方針	豊かな心と健やかな体を育む教育の推進		事業期間	令和 6年度～令和 13年度
	事務事業	子どものシビックプライド醸成事業			

【事業全体概要】

事業概要	第3期高松市教育振興基本計画の基本的な考え方の一つである「高松で育ち、高松で学び、高松で暮らして良かったと思える教育」の実現に向け、高松プライドプロジェクトを実施し、子どもたちのシビックプライド（地域の持続的な発展に当事者として貢献しようとする心）を育てる。			
年度概要	動画・マップの編集等委託等			
重点取組事業	重点取組	市長マニフェスト		関連根拠法令

【事業の目的】

対象（何を）	高松市立小・中学校の児童生徒及び高松第一高等学校の生徒
意図（どのような状態にしたいか）	高松市立小・中学校の代表児童生徒が学校や地域をよりよくするための取組について、意見交換や情報交換を行う高松プライドプロジェクトを実施し、自分の住む地域や高松市に誇りをもち、地域社会への参画意欲につなげる。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
高松プライドプロジェクト参加校数	校	0	0	24	22	22

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
		参加者のうち、市民参画意識が高まった児童生徒の割合	%	目標値 実績値	0 0	0 0	90 100	90
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
	高松プライドプロジェクトを予定通り実施し、参加した児童全員に、市民意識の高まりが見られ、目標を達成できた。			(目標達成度) 111.1%	(得点) 35点			
成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
			目標値 実績値					
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
				(目標達成度)	(得点)			

【コストの推移】

	単位	R 4(決算)	R 5(決算)	R 6(決算)	R 7(予算)
トータルコスト	[千円]	0	0	7,548	8,764
(事業費)	[千円]	0	0	2,144	3,360
(職員人件費)	[千円]	0	0	5,404	5,404

【事業内容と事業費内訳】

項目	事業内容	積算根拠等 (予算の増減理由)	事業費		
令和 6 年度	動画・マップの編集等委託等	2 , 1 4 4 千円	総額	2,144	
			特定財源	国	0
				県	0
				市債	0
				他	0
一般財源	2,144				
令和 7 年度	動画・マップの編集等委託等	3 , 3 6 0 千円	総額	3,360	
			特定財源	国	0
				県	0
				市債	0
				他	0
一般財源	3,360				

【事業の評価】

区分	評価項目	評価基準	
妥当性	事業の実施が総合計画・市長マニフェスト等の目標達成や、事業の根拠等に結びつくか。	5	結びつく
	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか。	5	高まっている
有効性	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	5	貢献度が大きい
	住民福祉の向上に貢献しているか。	3	貢献度が中程度、義務的事業
効率性	事業実施手法としては最適か。	5	現状が最適である
	類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性はあるか。	5	現状が望ましい

評価ランク	A (80%~ 100%)	A	総合点 (率)	98 / 100 (98%)	今後の方向性	継続
	B (60%~ 79%)					
	C (0%~ 59%)					

【昨年度の実施状況と課題】 (評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)

目標を概ね達成することができ、事業の目的に合った実施を行うことができている。

【今後の事業方針】 (評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針・改善策を具体的に記入)

シビックプライドの醸成に向けて、令和7年度も高松プライドプロジェクトを高松市立中学校及び高松第一高等学校の代表生徒を対象に実施する。

令和 7年度（6年度決算分）高松市事務事業評価表【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	人を育み、多様な生き方が尊重されるまち	評価担当	局名	教育局
	政策	個性を伸ばし、一人ひとりが輝く教育の充実		課(室)名	学校教育課
	施策	学びを支援する教育環境の充実		電話番号	087-839-2616
	取組方針	安全対策と教育機能の充実		事業期間	令和 6年度～令和 13年度
	事務事業	遠距離児童・生徒等通学費助成事業			

【事業全体概要】

事業概要	離島及び合併前の塩江町・香川町区域内の通学が困難な地域から通学する児童生徒の保護者、また、小学校の統合によって従前より通学距離が延長となる児童の保護者に対し、予算の範囲内で補助金を交付することにより、児童生徒の安全及び保護者負担の軽減を図る。			
年度概要	【小学校】遠距離児童通学費補助金の交付及びスクールバス運行業務委託（塩江・庵治） 【中学校】遠距離生徒通学費補助金の交付及びスクールバス運行業務委託（塩江）			
重点取組事業		市長マニフェスト		関連根拠法令

【事業の目的】

対象（何を）	離島及び合併前の塩江町・香川町区域内からの遠距離通学児童生徒の保護者を対象に実施。
意図（どのような状態にしたいか）	遠距離児童等の保護者負担を軽減するとともに、児童生徒の登下校の安全確保を図る。 通学費補助率 = 通学費補助児童生徒数 / 通学費補助対象児童生徒数

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
通学費補助件数	件	0	0	14	10	10

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
		通学費補助率	%	目標値 実績値	0 0	0 0	100 100	100 100
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
	教育環境の均等化が図られる本事業の実施により、義務教育の円滑な実施が図られ目標どおり達成できた。			(目標達成度) 100.0%	(得点) 35点			
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
				(目標達成度)	(得点)			

【コストの推移】

	単位	R 4(決算)	R 5(決算)	R 6(決算)	R 7(予算)
トータルコスト	[千円]	25,522	24,761	36,594	52,883
(事業費)	[千円]	22,528	21,750	30,418	46,707
(職員人件費)	[千円]	2,994	3,011	6,176	6,176

【事業内容と事業費内訳】

項目	事業内容	積算根拠等 (予算の増減理由)	事業費		
令和 6 年度	【小学校】遠距離児童通学費補助金の交付及びスクールバス運行業務委託(塩江・庵治) 【中学校】遠距離生徒通学費補助金の交付及びスクールバス運行業務委託(塩江)	17,279千円 13,139千円	総額	30,418	
			特定財源	国	0
				県	0
				市債	0
				他	157
一般財源	30,261				
令和 7 年度	【小学校】遠距離児童通学費補助金の交付及びスクールバス運行業務委託(塩江・庵治) 【中学校】遠距離生徒通学費補助金の交付及びスクールバス運行業務委託(塩江)	30,532千円 16,175千円	総額	46,707	
			特定財源	国	2,303
				県	0
				市債	2,300
				他	165
一般財源	41,939				

【事業の評価】

区分	評価項目	評価基準	
妥当性	事業の実施が総合計画・市長マニフェスト等の目標達成や、事業の根拠等に結びつくか。	5	結びつく
	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか。	3	横ばいである
有効性	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	5	貢献度が大きい
	住民福祉の向上に貢献しているか。	3	貢献度が中程度、義務的事業
効率性	事業実施手法としては最適か。	3	現状が望ましい
	類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性はあるか。	1	検討の余地がある

評価ランク	A (80%~ 100%)	A	総合点 (率)	90 / 100 (90%)	今後の方向性	継続
	B (60%~ 79%)					
	C (0%~ 59%)					

【昨年度の実施状況と課題】(評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)

目標を概ね達成することができ、事業の目的に合った実施を行うことができています。

【今後の事業方針】(評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針・改善策を具体的に記入)

申請窓口となっている学校の事務負担の軽減を図るために、対象者の把握等について、学校との連携を密に行う。

令和 7年度（6年度決算分）高松市事務事業評価表【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	人を育み、多様な生き方が尊重されるまち	評価担当	局名	教育局
	政策	個性を伸ばし、一人ひとりが輝く教育の充実		課(室)名	学校教育課
	施策	学びを支援する教育環境の充実		電話番号	087-839-2616
	取組方針	安全対策と教育機能の充実		事業期間	令和 6年度～令和 13年度
	事務事業	教育資金支援事業			

【事業全体概要】

事業概要	成績優秀かつ向学心おう盛な生徒であって、経済的理由のため進学困難な者に対し、奨学金を支給するとともに、高等学校等に入学を希望する生徒の保護者で、入学準備金の調達が困難な者に対し、入学準備金を貸し付け、教育の機会均等に努める。また、大学等へ進学した者の保護者で、入学資金融資制度を利用した者に対し、利子補給を行い、保護者の経済的負担の軽減を図る。			
年度概要	奨学金の支給 入学準備金の貸付 大学等教育資金利子補給 高等学校等入学準備助成金			
重点取組事業		市長マニフェスト		関連根拠法令

【事業の目的】

対象（何を）	経済的理由のため就学困難な者
意図（どのような状態にしたいか）	就学を希望する者が経済的理由で、その機会を失うことがないように就学の機会を与える。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
奨学金支給人数	人	0	0	194	190	190

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
		奨学金受給希望者の高等学校等の進学率	%	目標値 実績値	0 0	0 0	100 100	100
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
	就学者の経済的負担が軽減され、教育環境の充実に結びつき、目標どおり達成できた。		(目標達成度) 100.0% (得点) 35点					
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
			(目標達成度) (得点)					

【コストの推移】

	単位	R 4(決算)	R 5(決算)	R 6(決算)	R 7(予算)
トータルコスト	[千円]	29,755	28,681	41,021	53,159
(事業費)	[千円]	26,013	24,917	30,985	36,947
(職員人件費)	[千円]	3,742	3,764	10,036	16,212

【事業内容と事業費内訳】

項目	事業内容	積算根拠等 (予算の増減理由)	事業費		
令和 6 年度	奨学金の支給 入学準備金の貸付 大学等教育資金利子補給 高等学校等入学準備助成金	22,237千円 2,354千円 59千円 6,335千円	総額	30,985	
			特定財源	国	0
				県	0
				市債	0
				他	8,131
一般財源	22,854				
令和 7 年度	奨学金の支給 入学準備金の貸付 大学等教育資金利子補給 高等学校等入学準備助成金	23,767千円 2,260千円 60千円 10,860千円	総額	36,947	
			特定財源	国	0
				県	0
				市債	0
				他	13,081
一般財源	23,866				

【事業の評価】

区分	評価項目	評価基準	
妥当性	事業の実施が総合計画・市長マニフェスト等の目標達成や、事業の根拠等に結びつくか。	5	結びつく
	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか。	3	横ばいである
有効性	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	3	貢献度が中程度、義務的事業
	住民福祉の向上に貢献しているか。	3	貢献度が中程度、義務的事業
効率性	事業実施手法としては最適か。	3	現状が望ましい
	類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性はあるか。	5	現状が望ましい

評価ランク	A (80%~ 100%)	A	総合点 (率)	92 / 100 (92%)	今後の方向性	継続
	B (60%~ 79%)					
	C (0%~ 59%)					

【昨年度の実施状況と課題】 (評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)

目標を概ね達成することができ、事業の目的に合った実施を行うことができている。

【今後の事業方針】 (評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針・改善策を具体的に記入)

例年広報誌やHP、学校を通じて制度の周知に努めているが、支給人数は横ばいである。市民ニーズに合致しているか引き続き検討する必要がある。

令和 7年度（6年度決算分）高松市事務事業評価表【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	人を育み、多様な生き方が尊重されるまち	評価担当	局名	教育局
	政策	個性を伸ばし、一人ひとりが輝く教育の充実		課(室)名	学校教育課
	施策	学びを支援する教育環境の充実		電話番号	087-839-2616
	取組方針	教員の資質向上と教育指導体制の充実		事業期間	令和 6年度～令和 13年度
	事務事業	学校・地域連携システム推進事業			

【事業全体概要】

事業概要	学校運営協議会を各小・中学校に設置する。地域連携システムにおける学校運営協議会は、学校が、保護者や地域の住民に対し、学校運営に関して、活動内容を報告したり、意見や支援活動を求めることで、当該学校のよりよい教育の実現に取り組む。		
年度概要	学校運営協議会委員報酬等		
重点取組事業	市長マニフェスト	関連根拠法令	学校教育法施行規則 高松市立の管理運営に

【事業の目的】

対象（何を）	学校、地域
意図（どのような状態にしたいか）	学校が保護者や地域の住民に対し、学校運営に関して、活動内容を報告したり、意見や支援活動を求めたりすることで、当該学校のよりよい教育の実現に取り組む。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
学校・地域連携システム組織結成校数	校	0	0	69	69	69

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
		学校・地域連携システム組織結成割合	%	目標値 実績値	0 0	0 0	100 100	100 100
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
	すべての学校で組織を結成することができており、目標は達成できた。		(目標達成度) 100.0%					
			(得点) 35点					
成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
		学校評価（家庭や地域との連携・協働）の評価平均得点	点	目標値 実績値	0 0	0 0	3.6 3.4	3.6 3.6
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
	家庭や地域との連携・協働に関して、保護者や地域が効果を実感することができる事業実施方法を検討する必要がある。		(目標達成度) 94.4%					
			(得点) 33点					

【コストの推移】

	単位	R 4(決算)	R 5(決算)	R 6(決算)	R 7(予算)
トータルコスト	[千円]	4,074	8,349	10,886	12,092
(事業費)	[千円]	332	4,585	5,482	6,688
(職員人件費)	[千円]	3,742	3,764	5,404	5,404

【事業内容と事業費内訳】

項目	事業内容	積算根拠等 (予算の増減理由)	事業費		
			総額		
令和 6 年度	学校運営協議会委員報酬等	5 , 4 8 2 千円	総額	5,482	
			特定財源	国	0
				県	0
				市債	0
				他	0
一般財源	5,482				
令和 7 年度	学校運営協議会委員報酬等	6 , 6 8 8 千円	総額	6,688	
			特定財源	国	0
				県	0
				市債	0
				他	0
一般財源	6,688				

【事業の評価】

区分	評価項目	評価基準	
妥当性	事業の実施が総合計画・市長マニフェスト等の目標達成や、事業の根拠等に結びつくか。	5	結びつく
	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか。	3	横ばいである
有効性	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	5	貢献度が大きい
	住民福祉の向上に貢献しているか。	5	貢献度が大きい
効率性	事業実施手法としては最適か。	3	現状が望ましい
	類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性はあるか。	5	現状が望ましい

評価ランク	A (80%~ 100%)	A	総合点 (率)	94 / 100 (94%)	今後の方向性	継続
	B (60%~ 79%)					
	C (0%~ 59%)					

【昨年度の実施状況と課題】 (評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)

目標を概ね達成することができ、事業の目的に合った実施を行うことができている。

【今後の事業方針】 (評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針・改善策を具体的に記入)

各校の具体的な活動内容の情報共有を図るなどにより、一層充実した活動となるよう努める。

令和 7年度（6年度決算分）高松市事務事業評価表【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	人を育み、多様な生き方が尊重されるまち	評価担当	局名	教育局
	政策	個性を伸ばし、一人ひとりが輝く教育の充実		課(室)名	学校教育課
	施策	学びを支援する教育環境の充実		電話番号	087-839-2616
	取組方針	教員の資質向上と教育指導体制の充実		事業期間	令和 6年度～令和 13年度
	事務事業	研究指定校研究推進事業			

【事業全体概要】

事業概要	国・県から研究指定校等事業を受けることで、学校課題の解決及び学校教育活動の改善・充実を図るとともに、教職員の資質・能力の向上を図る。			
年度概要	国・県から事業を受託し、研究指定校が必要とする経費を支出する。 研究推進についての指導・助言を行う。 小学校費 中学校費			
重点取組事業		市長マニフェスト		関連根拠法令

【事業の目的】

対象（何を）	市立小・中学校
意図（どのような状態にしたいか）	研究指定校等事業の実施により、学校課題の解決等を図る。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
研究推進についての指導・助言を行った学校数	校	0	0	14	9	9

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
		研究指定校等事業の成果をいかしている学校の割合	%	目標値 実績値	0 0	0 0	12 19.2	12
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
	研究指定等事業の受託を希望する学校への支援により、学校課題の解決等を図りながら、目標を概ね達成できた。							
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
	研究指定等事業の受託を希望する学校への支援により、学校課題の解決等を図りながら、目標を概ね達成できた。							

【コストの推移】

	単位	R 4(決算)	R 5(決算)	R 6(決算)	R 7(予算)
トータルコスト	[千円]	4,316	4,508	3,736	4,316
(事業費)	[千円]	574	744	1,420	2,000
(職員人件費)	[千円]	3,742	3,764	2,316	2,316

【事業内容と事業費内訳】

項目	事業内容	積算根拠等 (予算の増減理由)	事業費		
令和 6 年度	国・県から事業を受託し、研究指定校が必要とする経費を支出する。 研究推進についての指導・助言を行う。 小学校費 中学校費	680千円 740千円	総額	1,420	
			特定財源	国	0
				県	1,420
				市債	0
				他	0
一般財源	0				
令和 7 年度	国・県から事業を受託し、研究指定校が必要とする経費を支出する。 研究推進についての指導・助言を行う。 小学校費 中学校費	1,000千円 1,000千円	総額	2,000	
			特定財源	国	0
				県	2,000
				市債	0
				他	0
一般財源	0				

【事業の評価】

区分	評価項目	評価基準	
妥当性	事業の実施が総合計画・市長マニフェスト等の目標達成や、事業の根拠等に結びつくか。	5	結びつく
	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか。	3	横ばいである
有効性	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	5	貢献度が大きい
	住民福祉の向上に貢献しているか。	3	貢献度が中程度、義務的事業
効率性	事業実施手法としては最適か。	1	検討の余地がある
	類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性はあるか。	5	現状が望ましい

評価ランク	A (80%~ 100%)	A	総合点 (率)	92 / 100 (92%)	今後の方向性	継続
	B (60%~ 79%)					
	C (0%~ 59%)					

【昨年度の実施状況と課題】 (評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)

目標を概ね達成することができ、事業の目的に合った実施を行うことができている。

【今後の事業方針】 (評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針・改善策を具体的に記入)

県からの委託金を受ける事業実施方法により、本市の事務処理が非常に煩雑になっている。学校における事務も負担が大きく、今後、実施方法の見直しを行う。